

第8回 西国分寺駅北口周辺まちづくり協議会 議事録

日 時：平成31年2月14日（木） 午後3時00分～4時40分

場 所：国分寺市立いずみホール Bホール

出席者：（協議会委員／五十音順 敬称略）

五十嵐 良江	市川 宏雄	小川 恵一郎	清原 公美子
小林 利勝	佐藤 一幸	塩野目 龍一	島田 英之
中西 正彦	中山 勝博	原 清	藤原 大
星 卓志	武藤 稔江	八木 弘一	結城 順子

事 務 局：国分寺市まちづくり部まちづくり推進課

- 次 第：
1. 開会
 2. 議題
 - (1) まちづくり計画（素案）の検討
 - (2) 平成31年度スケジュール案
 3. 事務連絡
 4. 閉会

配布資料

- ・資料1：西国分寺駅北口周辺まちづくり（素案）
- ・資料2：平成31年度スケジュール案（まちづくり計画決定手続き）
- ・参考資料1：第7回西国分寺駅北口周辺まちづくり協議会議事録

【議 事】

1. 開会 会長の開会宣言により協議会が開会。

2. 議題

(1) まちづくり計画（素案）の検討

議題（1）について、事務局より資料1に基づき説明。

会 長：前回皆さんから出された意見を踏まえて、いくつか資料を加えてこれまでの議論をとりまとめ、まちづくり計画（素案）としたものが出てきた。これについて意見・質問をお願いしたい。

島田委員：事務局の説明の中で、実現化までのステップも示されているが、そもそも、この会議でまちづくりの方向が決まったという認識が私には全くない。

皆が色々な意見を言い合うと、それらを反映した資料は出てくる。しかし、こ

の場で問題点を明らかにして、協議会として決を採った形にはなっていない。もう一つ伺いたいのは、計画案はできたが、最終的には誰が「こういう形で行こう」と決めるのか。計画案には、各委員の意見が載っているだけで、「ここはおかしい」「ここは問題がある」などの結論が書かれていない。我々はただ意見を言っただけなのか。そこが疑問である。

道路をはじめ、色々なことに対して、もっと計画を詰める必要があるのではないか。色々な意見が出されているが、どれが賛成多数なのかがわからない。大勢として賛同を得ているのが何かわからないので、すっきりしない。

会 長：これまでの経緯やまちづくり計画の位置付けに関する説明は、冒頭にあったと思う。具体的に誰が決定するのかは、事務局に説明をお願いします。

事務局：協議会の中でまちづくり計画（案）としてとりまとめた後、市の計画として位置づけるための決定手続きを行う。手続きについては、市民説明会の開催、意見書の募集等を経て、まちづくり条例に基づく諮問機関である市民会議に諮り、決定という流れとなる。この手続きを経て市の計画として決定されたまちづくり計画は、「まちづくり基本計画」の一つとなり、都市計画マスタープランや市の基本構想と並ぶ重みをもつ計画となる。

会 長：決定までの流れについては、後程詳しく説明するということであるが、そのような手順を踏んでいくということである。

島田委員：例えば駅前広場に関しても、「交通広場は地上が良い」「地下が良い」、「高い建物が良い」「低い建物が良い」、と様々な案が出ているが、協議会で統一意見として決まっていはいないはずである。にもかかわらず、今回の資料を見ると、駅前エリアの北側のブロックに交通広場をつくる計画が突然出てきている。確かに案としては出されていたが、協議会の中でこれらの案について決めるような話し合いは無かったはずである。協議会で方向性を決めず、誰がそれを決めるのかと思った。

会 長：過去2年間の協議会で、毎回議論してきており、また協議会の他にも、地域の方との懇談会も行ってきた。前回の協議会でもランドデザイン案を出して、皆さんの意見をお聞きしてこのように進めてきているのだが。

島田委員：もう一度確認するが、資料1の69ページにあるような駅前広場を、こういう形をつくろう、という話はほとんど協議会では出てこなかったのではないかと。

会 長：前回、駅前広場については詳しく意見が出てきており、当該ページでは、それを踏まえてこういう形でどうか、という提案をしている。

島田委員：協議会全体の意見として、この形で案を出したいという話がなかった。それを

今日、この案が良いとか悪いとか議論するのかもしれないが。

会 長：何が良いか、何が悪いか、この素案に対して意見を言っただけであればいい。

島田委員：その意見は、協議会の案として出すものに対して我々が議論を詰めてない、というもので良いのか。

会 長：まだ詰めてないのではなく、本日の資料である「まちづくり計画（素案）」は、これまで詰めてきたことをとりまとめたものであり、それに対して「いかがですか」とお伺いしているのである。本日の協議会の中で、「良い」「悪い」あるいは「こうすべきだ」と意見をいただければ、その結果を反映していく。

島田委員：今日はそれをやるということで了解する。

会 長：前日も、これまで詰めてきた内容を取りまとめた「グランドデザイン及びまちづくりの具体化方策（協議会案）たたき台」について議論を行っており、更に今日はその次の段階である。今回の資料に、前回の意見は概ね反映されていると考えている。

他に意見・質問はあるか。

原 委員：同じく資料1の69ページに、市街地拠点機能が示されているが、これは今の駅舎を建て替えるイメージか。

事務局：現段階では、具体的に駅舎をどうするかは決められない。場合によっては駅舎も入るかもしれないし、入らないかもしれない。それらは、今後、関係者等との話し合いにより決めていくことだと考えている。

原 委員：今までは、大まかなイメージで市街地拠点機能についてエリア分けされていたと思うが、駅舎も含めて整備し直すイメージなのか、それとも、駅舎を外した今の駅前の空間を活用して整備するイメージなのか、そこをお聞きしたい。

事務局：そこを決めるに当たっては、当然、土地所有者や関係事業者との調整が必要だと考えており、現段階では、位置としてはこのあたり、ボリュームとしてはこのくらいというイメージを示している。実際に、駅舎と一緒に整備していくかどうかは、今後話し合いの中で決めていくものであると考えている。

原 委員：交通結節機能の配置はあくまでもイメージだと思うが、駅から近いところと、離れたところのこの2パターンで決定なのか。

事務局：決定ではない。今回の意見を集約するとだいたいこの2パターンになるが、皆さんの意見を聞きながら、これから具体的な検討を進めていく。

原 委員：例えば、少し位置が右にずれたりするということは考えられるのか。

事務局：それは今後の検討の中で、当然起こり得ると考える。

原 委員：これを機に、交通結節機能は絶対整備したほうがいいと考えている。

会 長：ご意見の趣旨は良くわかるが、細かい議論はこれからである。

原 委員：今まで大まかに示されてきたことが、具体的になってきたので、その点を確認したかった。

五十嵐委員：資料 1 の 15 ページにあるが、西国分寺駅周辺整備基本構想が策定された時は、駅の北と南、それから当時の国鉄の駅舎も含めての整備構想だった。そのような経緯もあるので、今のご意見がもし「駅舎が含まれては困る」という意味であるなら、それは違うのではないかと思う。もともと、基本構想では線路も含めた駅の南北が開発区域に入っていた。それも踏まえて、私は、グランドデザインを書いた時には、線路に蓋をかけるというような提案もしている。国鉄からJRになった今でも「あまり関係ない」という姿勢ではなく、是非この計画に協力して頂きたい。

原 委員：協議会にも出席しており、関係ないとは全く思っていない。駅前広場の機能がない中で、課題はたくさんあるが、これを機にきちんと整備すべきだと思っている。

五十嵐委員：市長に報告する時点で「駅は関係ない」では、少し困る。

原 委員：駅は関係ないということではなく、この市街地拠点機能の中に駅舎が入っているのか、イメージを確認したかっただけである。誤解があったら申し訳ない。

五十嵐委員：このまちづくりを駅も一緒にやっていくという意識を、皆さんに持って頂けたら良いと思う。また、元々は駅南北が一体の整備構想だったが、北側が遅れている、ということも意識していただきたい。

結城委員：資料 1 の 75 ページの「都市の中庭」と書いてあるところには、建物は建たないのか。

会 長：「都市の中庭」については、実際には家が建っていたり農地だったりする。その上で、「都市の中庭」がここにあるといい、というアイデアとして示しているものである。

清原委員：資料 1 の 69 ページの交通結節機能については、駅前直近とやや北側の2か所考えられるということだが、駅前直近の場所で考える場合、図上では界隈性のある飲食店街と重なっているので、これらの飲食店街を残した上で地下に交通結節機能を入れることになるのか。

会 長：この場合は、当然地下になる。

清原委員：では、北側に交通結節機能を入れる場合、現在駅北口でロータリーになってい

るあたりが市街地拠点機能を担うと考えればよいか。私の自治会は駅から近いところから第五小学校のあたりまでで、多分地域の皆さんは今あるロータリーのあたりが交通広場として整備されると思っている。しかし、そこは個人の土地なので別の場所に移さざるを得ないという理解でよいか。

会 長：交通結節機能については、駅に近いところと少し離れたところという2つのパターンを示している。市街地拠点機能の中にも広場ができるというバリエーションも可能性としては考えられるが、これらのパターンはあくまで考え方として示しているものである。交通広場を駅に近いところにするか、離すかという議論は一般的なものであり、様々な駅で行われている。

大きな交通広場が必要となれば、建物の大きさや配置も変わってくると思うが、この点は今後の検討の中で決まっていく。もし、地下に交通広場が入り、今のロータリーの場所に市街地拠点機能を配置できれば、より便利になり、鉄道事業者も協力してくれるかもしれない。それらは今後の検討となる。

清原委員：もし、市街地拠点機能が駅ビルのような形でそこに配置できれば、地上案とした場合の交通結節機能も、駅から少し離れているが、駅と連続性が出てくるかもしれない。

会 長：最近では駅前に交通広場を置かないことが主流で、駅前は人のために使って交通広場は少し離れたところに置く。この案は、それに近い考え方である。

清原委員：資料の中に、北側に交通広場を配置する場合は、駅前からやや遠くなるという記述があったが、先のような市街地拠点機能が配置されるのであれば、駅全体の機能の観点からは近いと考えて良いのではないかと思った。

会 長：交通広場が駅の目の前ではないが、十分近いと言える。

清原委員：交通結節機能が南側にくると、交通広場は地下になるとのことであるが、ここにある飲食店街はかなり地下を掘っているらしいと聞く。それらの具体的な調整は、今後の課題かと思う。

会 長：あくまで噂であり、その点も含めた検討はこれからである。

八木委員：資料1の70ページであるが、交通広場の地下案では整備およびランニングコストがかかるとあるが、日本橋のように、景観や歩行者の事も考えると、やはり地下が良い。ランニングコストがかからない折衷案を考えていくことが必要である。

会 長：理想的には地下が良いのはわかっているが、やはりコストがかかる。中でも初期整備費用が問題であり、これが膨大になると再開発等の事業全体の中で費用をまかなえるかどうかの問題になってくる。そういう意味で現段階ではこの2

パターンを提示している。地下案が可能かどうかは、事業採算の問題であり、今後の検討である。

島田委員：今の地下案についてであるが、これは駐車場を造ることなのか。

会 長：これはロータリーであり、コミュニティバスやタクシーが入るもので、駐車場を造るものではない。

島田委員：地下にコミュニティバスなどのロータリーを造ることか。

会 長：地上を歩行者空間として利用するため、地下にロータリーを造るものである。

島田委員：地上を歩行者空間にするためだけに費用をかけるのは、もったいない気がする。私個人の意見だが、駅前広場は今のままで良いと思う。個人の車を入れなければ今のロータリーで十分間に合うし、個人の車は市街地拠点機能の北側で処理すれば良いと思う。そうなれば今のロータリーをそのまま使いながら工事もできる。残った空地进行を全部ビル化して、駅前エリアから北側へ繋がる道路さえ、雨に濡れずに通れるように造れば、一番コストがかからなくて良いプランであると思う。

会 長：この協議会では、今後数十年、100年先を見据えたまちづくりを考えている。まちづくりを考える時には、まず、全体としてまちをどうつくっていくかを決めなければならない。

これまでの協議会の中で、まずまち全体の枠組みを決めようという議論があり、次にその枠組みを踏まえて、駅前の広場をどうしようかという議論を行った。それは「緑と水の軸」との繋がりも踏まえた中で考えている。

今あるものを改善すれば良いというものもあるが、これからまち全体を変えていく中で、どういう構造が良いかという議論をこれまで行ってきた。その延長に、駅前に歩行者広場を配置しよう、交通広場の場所や機能はどうするか、生活系の拠点機能を配置したいという議論があって、複合的な話の中でこのような駅前の機能配置案が決まってきたと理解している。

今のままで良いものもあるが、まち全体を考えた時にどういう機能分担があって、どう組み立てるかを議論した上で改めて考えると、「ここは変えよう」となったものもある。それが今まで2年間議論してきた成果だと考えている。

島田委員：そこは私の考え方と異なる。交通広場は、平面で造れば後からでも色々な工夫ができる。しかし、地下に交通広場を造ってしまったら、手狭になってもそのまま使うしかない。将来、地下交通広場にできれば良いという考え方は分かるが、現実的に難しいと思っている。

農業についても、ここで残したいと言っても、相続が発生すれば、私は残らないと思う。農地以外に使いようがない地域であれば別だが、この場所で農地を

維持していくのは困難である。緑はあるに越したことはないが、それよりもっと優先的に考えてほしいものがある。

会 長：優先的に考えるものとは、具体的に何か。

島田委員：商業施設を地下に造りたい。今は賑わいがなく、美味しい飲食店もない。かといって、出店するにも、今の人口では商売は成り立たない。ならば、今、空地となっているところをビル化して、住宅をたくさん増やせばして、賑わいを創出することを考えなければならない。若い人のためには、もっと遊びのあるまちにした方が良くはないか。緑を重要視するという考えは、私自身は持っていない。

会 長：資料 1 の 45 ページに示されているが、昨年度、西国分寺駅北口周辺地区はどんなまちを目指すのか、3つの大きな原則を決めた。1つ目のコンセプトが「暮らしやすい魅力的な住宅都市」、2つ目が「人が中心の都市デザイン」、そして3つ目が「まちを育て誇りを育む [エリアマネジメント]」。1年目の検討で、これらをまちの将来を考える3つのコンセプトとして決めた。これが基本としてあって、それに従って詳細を検討してきたと思っている。個人の意見が様々あるのは当然である。しかし、大枠のまちの方向性として「暮らしやすい魅力的な住宅都市」とするならば、「ビルを造ってそこで買い物をすれば良い」という話ではない。一部そのような要素は含まれるが、まち全体のバランスから個々の要素を考えてきた中で、このような案となったと考える。まちの全体の方向性は1年目に決まったことであり、その方向性を基本とした議論の流れの結果、このような提案になっていると思うのだが、いかがか。

島田委員：総論としては異を唱えるつもりはないが、各論としては、現実的に難しいと思う。「もっと飲食店が欲しい」と言っても、店舗が建てられないまちであれば、我々の子供達は納得しない。ある程度人口を増やさなければ、そういう店は出店しない。総論として何も無いきれいな駅前が良いと決めて、その結果、出店者がいなかったのでは意味が無い。

総論で決めたことが優先だから店舗はできないということならば、20年～30年後の将来、西国分寺は魅力が無いという評価になる可能性がある。

私は、もう少し人を集めることに力を入れないと、現実的にまちづくりはうまくいかないと思っている。

会 長：ご指摘の内容については、市街地拠点機能を駅前につくるということに反映されていると思われる。資料に示す駅前の機能配置の考え方としても、商業機能を否定するものではない。

島田委員：駅前だけに店舗を造っても、すぐに無くなる。私自身、長年小売業をやってき

たが、人がいないところに店は来ない。逆に良い店、大きな店があれば人は来る。小さな飲食店のようなものは、そのエリアに固定客がいないと続かない。この計画では、いつまでたっても西国分寺は変わらないと思う。

副会長：今の内容に関しては、資料 1 の 57 ページの「寄り道したくなるまちのしかけづくり」の項目に方針が示されている。戸建て住宅中心のエリアについても、用途地域を見直して住環境を悪化させない規模の飲食店等も立地できるようにして、全体として住環境と調和しつつ利便性を向上させ、魅力を高めていくという方向性である。もちろん人口をどのくらい増やすかということは次に考えなければならないことであるが、基本的な方向性として、この地区は落ち着いた住宅地なので、それをどんどんマンションにしようという議論はなかったはずである。基本は今の住環境を守りながら、という考え方だったと思う。

島田委員：駅前広場に駐車場をたくさん造りたいと思ったのは、この計画は、西国分寺駅北口周辺地区のことしか考えておらず、戸倉や恋ヶ窪、並木町といった地区のさらに奥の地域のことを全く考慮していないからである。それらエリア外の地域からどうやって西国分寺に来てもらうかを、全く考えていない。遠方から人を集めることによって乗客も増え、買い物客も増え、飲食店も増えてまちは賑やかになる。やってみなければわからないが、私の経験から言えば、単に表面的に緑を整備しても、店舗はそこまで増えないと思う。

会長：少し広域的なエリアから客を集めるビジネスを考えたい、というご意見だと思うが、そういう目的で店舗を集めて市街地拠点機能を整備するのであれば、地下に駐車場をしっかり造れば良い。客が来ることが前提であれば、それも可能である。

ただし、そのようなまちを目指すのであれば、例えば国分寺駅等の既存のいくつかの商業拠点との競合になるし、その競争に勝ち残るものを造らない限り、広域からの集客はできない。広域から集客するのであれば、それらと徹底的に競争する覚悟が必要である。

競争に勝つ施設を建てて、採算が成り立つと判断できるのであれば、市街地拠点機能の地下に駐車場を何層も造れば良い。需要から見てその事業が可能かどうかの試算もできる。

ただしこれまでの議論の中では、周辺に色々な商業拠点がある中で、西国分寺はそんなに大胆ではないだろう、むしろ魅力的な住宅都市を指向しようという考え方であり、それに相応しい商業機能を検討した上で決まってきた。ご意見としては理解するが、本当に広域を商圈とした拠点づくりをやろうとするならば、全くこれまでの議論とは違ってきて、この地域全域は魅力的な住宅都市では無くなる。それはもう一度、議論の根幹に戻ることになる。これまでの

議論の中では、環境の良い住宅地にしたいという意見がかなり多かったので、このような案となった。もしそれが違って、広域から客を呼ぼうという考え方であれば、全域をそのような形にするプランとなっただろう。しかしそのような議論はこれまでほとんどなかった。おっしゃっているような計画をつくろうと思えばできる。ただしそうすると経済の問題で、他の競合都市とどう戦うかという問題になる。

島田委員：委員の皆さんは、このような計画で本当に良いのか。私の中では、ふわっとした議論をしているうちに、このような案が出てきたように感じる。皆さんが理解し納得した上でこのような案になっているのならばそれで良いが、これまで一つ一つの要素について協議会で決定しないまま、ここで案とするとと言われても、納得できない思いがある。

中山委員：私は島田委員とは全く逆で、市街地拠点機能すら要らないのではないかと考えている。ただし、この案に納得はしている。駅前にはちょっとした店があれば良い程度だと考えているし、緑が中心の計画で良いと思う。

国分寺駅北口に大規模商業施設ができたが、成功している店は少ないと思う。新しい店をつくっても、変わらないところは変わらない。ならば、今あるものを活かした方が良い。緑に人が集まってくるような都市になってくれば、それで成功といえる。買い物をしたければ、ちょっと外へ出ればいいし、インターネットでもできる。どういうところに住みたいかといえば、やはり自分は、緑があるところに住みたいし、子供もそのようなまちに住ませたい。

また、現在の駅前ロータリーは、自動車や自転車の動線が錯綜していて、子供を連れて歩くのが怖い。歩行者の安全性を考えると、計画にあるようにロータリーの場所を移すのが良いと思う。今回の案は、私の考えていたことに非常に近いので、この方向で進めていってほしいと思っている。

清原委員：市街地拠点機能について、駅ビルはテナント料が高く、大手のチェーン店しか入らないので、面白くないと常々思っていた。これは若い人も言っている。市民懇談会でも、界隈性のある飲食店が魅力的であるという意見も多かった。そのような、西国分寺ならではの良さを生かすような市街地の拠点機能であれば良いし、そのような賑わいを目指せば良いと思う。

八木委員：色々な意見はあると思うが、まず駅前の環境整備をやっていただければ、それなりにまちは出来上がっていくと思う。道路整備等を先にやっていただければ、まちづくりの方向性が決まってくる。駅前をこういった形にするかを煮詰めていけば、自ずとまちの形態は決まってくると思う。あまり広域で検討しても、議論がぼやけて、まちづくりが進まなくなってしまうのではないかと。

小林委員：私はこの案に示される考え方に賛成する。しかし、なぜ地区内道路が北側の国3・4・6号線まで繋がっていないのかは疑問である。また、駅前広場については、現状のロータリー部分だけで完結する問題ではないと思う。これまでの議論を踏まえてきちんと作った案になっているので、協議会の案としてはこの内容で良い。またこの後、説明会等を経てきちんと決定していただければ、それで良いと思う。

事務局：北側に道路が繋がっていないように見えるのは、説明文の枠で隠れてしまっているものであり、北側の国3・4・6号線には地区内道路として3本、線路沿いのアクセス道路として1本が接続する計画となっている。

小林委員：南北道路として、線路沿いのアクセス道路の他に、地区西側に6mあるいは5m程度の道路が必要だと思うので、既存道路を活かして整備するという考え方は計画に取り入れてほしい。

直接関係しないが、先日市報に掲載されていた、市庁舎などの公共施設の再配置に関して、西国分寺駅北口も関係してくるのか。

事務局：市報に掲載されていた公共施設の再配置、特に庁舎関連は、基本的にこのエリアの中には入っていないと捉えている。推進地区に関しては、公共施設の再配置とは切り離して考えて良いと思っている。

中西委員：資料1の69ページの駅前エリアの機能配置のイメージ図について、前回の資料では、こういった形で大きく示されなかったため、今回の議論で注目された面もあったと思う。

事務局に確認であるが、市街地拠点機能と緑色で表示されている「交流機能」「景観機能」の位置関係については、考え方を示すイメージであるものの、それなりのスタディをして、技術的な合理性を考えてつくっているという理解で良いか。

事務局：ある程度の技術的な検討を踏まえて、イメージを示している。

中西委員：駅前の機能配置を決めるときには、交通事業者も含め関係者で協議することが必要であり、実現に向けてはいくつもの詳細な検討が必要となってくるので、このイメージが確定的なものでは決していない。

ただし、広場に必要な広さを合理的に考えた上で配置すると、このようなイメージになるという提案である。そのような経緯を念頭に置いていただくと良いと思う。

その上で、私は、この位置関係はあり得ると思う。なぜならば、駅に隣接した市街地拠点機能については、あまりに大きいものはどうかと思うが、事業費を考えるとそれなりのボリュームは必要となる。そのような建物が住宅地に近い

位置になると、駅とまちとの接続が悪くなる。そこで、ボリュームが出そうなものは交通事業者とも協力して駅に寄せて、駅と住宅地のバッファー兼交流機能として緑の広場をつくる。交通結節機能を地上にするか地下にするかは、悩ましいところだが、その順番を考えて組み立てていくと、このような配置になるだろう。

本当にこうなるかはまだわからないが、これまでの意見を踏まえて、ある程度技術的な検討を行った上での配置案であることは、この場で共有したい。難しい空間の中に、これまで検討してきた考え方を盛り込んだ、よく考えられた配置案だと思っている。

中山委員：資料1の57ページ等にある、駅前エリアの北側の迂回道路については、実際にはどのあたりのイメージになるか。

事務局：市民農園に向かう南北道路の1ブロック東側から北上し、保育園のあたりで右折して線路沿いの道路に接続するイメージである。

会長：先程、市街地拠点機能に関して、駅舎が含まれているかどうかという意見があったが、駅ビルとして建替えられれば、いずれは市街地拠点機能になると思う。ただし、点線で表示してあるように、概形であり詳細はこれから検討することである。

原委員：駅ビルを建てても、店舗や飲食店などは難しいというご意見が出ている中で、これだけのエリアを確保して大丈夫かという懸念はある。

会長：まだ建物の高さも書いていない。ボリュームは需要と供給で決まるものである。市街地拠点機能の北側に点線で示されている通路は、地下に入る車のアクセスを考慮してのものか。

事務局：武蔵野線をくぐる道路は、空頭を確保するためにややアンダーパスになっており、歩行者は歩道橋で道路を南北に渡っている。将来的に何をつくるにせよここを南北に渡すものは必要になってくる。まだアイデアベースだが、ここに何か建てるとしたら、そこと北側のブロックをつなぐペDESTリアンデッキや、通路などが必要だろうというイメージである。

島田委員：線路際の道は広げるつもりだということで良いか。

事務局：その方針である。

会長：他にご意見ご質問はないか。

一 同：なし。

会長：これでよろしければ、この場でまちづくり計画（素案）からまちづくり計画

(案) とする。皆様よろしいか。

一 同：異議なし。

小林委員：これで終わりではない。決定までは、まだ市民説明会等がある。

会 長：やっと始まったところである。これからまだまだ色々ある。では、今後の展開について事務局から説明をお願いします。

(2) 平成31年度スケジュール案

議題(2)について、事務局より資料2に基づき説明。

会 長：やっと始まったところで、まだ計画(案)になった段階である。これから市民説明会等を行うと、色々な意見が出てきて、変わっていく可能性もある。さらに「案」がとれて計画ができて実行段階に入ると、今度は、地域住民との調整や、事業資金の問題等、それぞれの段階で色々なことが起き、そのたび毎に計画も変わっていくことになる。今日何もかも決まったのではなく、この計画で大枠の方向性ができたので、ここから動いていくということである。2年間という長い間の検討、ありがとうございました。

3. 事務連絡

事務局：2年間の長きにわたり、委員の皆様には、西国分寺駅北口周辺まちづくり計画(案)の検討にご尽力いただいたことお礼を申し上げます。

西国分寺駅北口まちづくりのきっかけは、昭和54年の基本構想にある。そこから、その後の社会情勢などの変化を踏まえて、このまちづくり計画の検討を行うことになった。

検討は終わったが、また、まちづくり計画を決定するまでは、まちづくり協議会の任にあることから、委員の皆様におかれては、来年度もぜひご協力を賜るようお願いします。なお、まちづくり計画ができて、次の日から事業が始まるわけではないが、次のステップとしてこの計画をもって地権者の皆さんと事業等に向けた話し合いを詰めていきたいと思っている。その際にはまたご協力いただきたくお願いします。ありがとうございました。

4. 閉会

以上